

一通りやってみましたが難しいですね

年越しそばはぜひお父さんの手打ちで!

盛況でした!

そば打ち教室

3月2日、福島市の杉妻学習センターで、借り上げ住宅に避難する人を対象とした「そば打ち教室」を開きました。使用するそば粉は、長野県中川村から寄贈されたものです。初めてという人も「いいたて愚真会」の皆さんから手ほどきを受けながら十割の手打ちそばに挑戦。完成したそばを、打ちたてゆでたていただきました。



柗澤博一さん・浩子さん（草野）

そば包丁にも挑戦しました



コシがありおいしい。機会があればまたやりたいです

田村邦子さん（上飯樋）



講師の手さばきをお手本に

カボチャやナスの入った絶品のかきあげも



慣れないとうまくいかないもの。秋には新そばもできますから、機会があれば、またぜひ一緒にやりましょう

愚真会の佐藤公一会長

こころのぽけっと

「仮りの時計塔」から学ぶ

今年の飯館中学校の卒業生から、村の本校舎で学んでいない学年になります。PTA会報の名は「時計塔」。その時計塔は、今は仮設校舎の壁に写真として貼られており、そこからの卒業です。この学年は、一年半ほど川俣高校での借り校舎で勉強をしていました。先生、生徒とも何程か大変だったことでしょう。よく頑張ってくれました。学校設置者として、出来る限りの努力はしましたが、申し訳ない思いで一杯です。しかし一方で、本来の学校では、味わえなかったことを学んだ三年間でもあったのだなと、卒業生たちからの言葉を聞かされ、少しは救われた思いでした。「当たり前」の暮らしがいかに大切なものか分かった」「仮設校舎での学びを誇りにしたい」「多くの方の支えに出会った」「恩返しのできる人になりたい」などの声があったからです。

私は、祝辞で、「小学生から中学生になり、成長とともに皆さんは、親を、時には疎ましく、うるさい存在に思うかもしれませんが、命がけて生んでくれた母親や育んでくれた父親に、照れることなく、感謝の気持ちをしっかりと伝えられる、素直な青年になってほしい」との言葉を贈りました。

その保護者からも、さらに温かい言葉が、卒業する我が子に贈られていました。「避難生活の中で学んだことを胸に刻んで、しっかり生きて欲しい」「辛いことはいつまでも続かないよ。楽しいことは自分自身で、それはいつまでも続くよ」

生徒からも保護者からも、胸を熱くさせられた素晴らしい卒業式でした。私は、祝辞の結びに「成人式は必ず村で」と、贈る言葉に希望を添えさせていただきました。

平成26年3月17日

飯館村長 菅野 典雄

相農飯館校 18人



▲卒業証書を受け取る卒業生

◀答辞を述べる佐藤友里さん



村の幼稚園で修了式が、小学校と相馬農業高等学校飯館校で卒業式が行われ、合わせて127人が学び舎を巣立ちました。今年の中学校、高校の卒業生、幼稚園の修了園児たちは、飯館村内の教室では、授業が受けられず、村外に借りた園舎や校舎、それぞれに建てられた仮設校舎で3年間を過ごしました。子どもたちは、たくさんの支援や家族、先生に対する感謝と仲間と育んだ友情とともに笑顔で卒業しました。

笑顔と感謝を胸に
学び舎から巣立つ



- 3/1 相馬農業高等学校飯館校
- 3/13 飯館中学校
- 3/18 草野・飯樋幼稚園
- 3/20 草野・飯樋・白石小学校

草野・飯樋幼稚園 29人



▲修了証書を受け取る修了園児(草野幼稚園)

草野・飯樋・白石小学校 39人



▲卒業証書を受け取る卒業生(白石小学校)

飯館中学校 41人



▲卒業証書を受け取る卒業生

▶答辞を述べる菅野風希さん



「食を考える会」菅野一代会長から、中学校の卒業生に手作りの祝い菓子が贈られました。

